

Cover Illustration
M. Kelly (Satoshi Okada)
© WORLD PHOTO PRESS 2024
※本文中の価格は消費税込みの総額表示です。

CONTENTS



新しい表現方法RCGによる戦場のかたち
004 **ベトナム航空戦** Part 5

製作 / 三野正洋 (チームクアッド)

008 第63回 **サイゴン物語** Saigon Memories
MACVがいたベトナム戦争「入口から出口まで」[12]

040 **ベトナムを遠く離れて——。**
嗚呼、M10! 文 / 小倉 徹

042 **LIFEが語るベトナム戦争**
20世紀アメリカ社会と兵士の顔 文 / 原克 (早稲田大学教授)

054 **プロジェクトデルタ**
偵察マニュアル Part 10 最終回
潜入と脱出に関する諸注意

The Equipments of the U.S. Force
061 **[現用米軍装備カタログ]**
「海」装備特集 part 13 解説 / 松原 隆
1990年代後半～2000年代の強襲上陸装備
CQB&VBSS編

070 **ウエスタンアームズ新製品レポート**
Report by SHOTGUN MARCY
●S&W M4013 TSW ライトニングカスタム
●コルト M1911 ブラックアーミー ウッドグリップver.

075 **タナカワークス新製品レポート**
Report by SHOTGUN MARCY
●モデル1897トレンチガン HW Ver.2
●コルト・エアークルーマン HW「Rモデル」

078 **トイガンニュース**
タナカワークス
●S&W M66 2.5インチ コンバット・マグナム ステンレス・フィニッシュ Ver.3
●S&W M640センチニアル .38スペシャル 2インチ ステンレス・フィニッシュ Ver.2
●ペガサスII ガスガン・シリーズ コルト SAA 2ndジェネレーション7・1/2インチHW
●S&W M10ミリタリー&ボリス 2インチ HW Ver.3

080 **Militaria Roundup!**
U.S.NAVYユニフォーム Part1



088 **新製品情報 COMBAT mono**

DJちゅうの
089 **GEARHEADS JUNCTION**
第3回 ミルシムファーイースト
#MilsimFarEast #MFE03

096 **東京マルイ FESTIVAL 2023**
in ベルサール秋葉原

COMBAT FRONT LINE

- 107 今月の中田焦点! 実物仏軍サープラスウェア入荷!
フランス陸軍ウールインナーウェア
- 108 新作映画情報「モナリザ アンド ザ ブラッドムーン」
「ロスト・フライト」「バッド・デイ・ドライブ」
- 104 サバゲ三等兵APS部「お前ら反省会ばっかだな!」
なんていわないで絶対! の巻
- 106 レアミリタリーテクノロジー
- 109 読者プレゼント & CIC
- 110 バックナンバー
- 111 次号予告&奥付



ミリタリースポッター

A corpsman got his supplies ready to treat Vietnamese villagers during one of the operations near Hill 55 in Vietnam War.

Corpsmen, also known as “Docs,” are the unsung heroes of the Marine Corps who often make the difference between life and death on the battlefield. One of the bags corpsmen carry with them is the M3 First Aid Medical Bag, which would be stuffed full of bandages, antibiotics, and other tools to help the wounded.

米海兵隊コープスマンが、ベトナムのヒル55付近で展開された作戦で怪我をした村人を助けに行く。衛生兵のコープスマン、通称「ドック」は、表だっては目立たない無名のヒーローだ。彼らは戦場で生死を分ける場面で大きな働きをする。彼らが持ち歩くバッグにM3救急医療バッグがあるが、これには包帯、抗生物質など負傷者の手当をする道具がぎっしり入っている。 Photo/Official USMC photo by Lance Corporal R. B. Sanville.

ソ連の傑作短機関銃 PPSh-41

接近戦における絶対的有利を確保するために登場したサブマシンガン。この銃により手痛い被害を被ったソ連軍が開発した新型サブマシンガン、PPSh-41は第二次大戦で勝利を収める上で目覚ましい働きをした。一般的なサブマシンガンとは明らかに異なるPPSh-41の特徴とは一体何なのか。

Report by KEN NOZAWA

図版解説 / 鈴木健太郎

Photo / Ministry of Defence of the Russian Federation, RIA Novosti, U.S.ARMY, Bundesarchiv, Imperial War Museum, The Swedish Museum, WPP Archive

Illustration / M. Kelly

戦闘と戦術の変化が押し進めた 新兵器の開発もっとも効率よく 敵を倒すには何が必要なのか？

戦闘・戦争では多くの武器が、火器が使用される。それらは時代の変化や戦闘・戦術の変化に合わせて、より有利に戦いを進めたいという目標からの開発であった。どんな「新兵器」も必要に迫られて誕生してきたことになるが、いったん、人々の目に留まると、そこから急速に改良・発展が進むことも世の常であった。とくに近代はその傾向が強い。

さて、いつ頃の戦争から「近代戦」と呼ぶかについては意見の分かれるところだが、おおよそ、第一次世界大戦以降と見る声が多い。これは、戦闘機や自走戦車など、近代兵器が生まれ出されたことから来ている。そして、武器として最大効率を達成したと評されるサブマシンガンも、同じ時期に誕生している。

ここではサブマシンガン史に残る名銃、ソ連の傑作PPSh-41（ピストレット・プレーマーモート・シュバーギナー-41）を紹介したいが、改めて語るまでもなく、PPSh-41以前にも多くのサブマシンガンが世界各国で作られており、活躍している。にもかかわらず、PPSh-41が歴史的な傑作サブマシンガンとの評価を受けているのはなぜか？ ここでPPSh-41の真価を正しく知るためには、それ以前に製造された幾つものサブマシンガンの在り方と、歴史的な背景を知る必要がある。

そこで今回も、サブマシンガン誕生時まで遡り、話を始めてみたい。

世界初のサブマシンガンは、イタリアのヴィラール・ペローサM1915とされている。これは航空機搭載の対空機銃として開発された物だが、使用弾薬がピストル弾のためパワー不足、射程距離不

足から目立った活躍ができずにいたのだが、それを歩兵用に改良したところ有効性が証明され、活躍したという流れがある。ちなみにここでの「サブマシンガン」とはピストル弾を使用し、フルオートでの射撃が可能な火器という条件になる。現代ではそこに、歩兵が携行できる大きさと重さという条件が追加されている。

歩兵用の火器としてサブマシンガン（ピストル弾をフルオート射撃できる）の有効性が知られたことでふたつのサブマシンガンが生まれ出されたが、ひとつはオフィチーネ・ヴィラルー・ペローワ M1918で、もうひとつはベレッタ M1918だった。ベレッタ M1918に関してはセミオート射撃のみであったという説と、フルオート射撃が可能な物も製造されたという説があるが、それら二機種が事実上の世界初のサブマシンガンであったと考えてよい。ただ、どちらも生産数は少なく、実戦の場で活躍したとは言い難い。

では、世界で初めて実戦で活躍したサブマシンガンは何か？ それはベルグマン M18である。これは

ドイツのベルグマン社の製造となるが、開発者は後にStG44を開発することとなるヒューゴ・シュマイザー（Hugo Schmeisser: 1884年9月24日～1953年9月12日）である。

ここでベルグマン M18の名称から、その開発・採用が1918年であることは誰にも想像できるはずだが、1918年といえは第一次世界大戦の真っ只中であり、その大戦が新兵器のサブマシンガンを生み出したと分かる。

第一次世界大戦では現代にまで繋がる数々の新兵器が、新たな火器が造られている。中でもサブマシンガンはその最たるものだが、これは当然、当時の戦略・戦術が大きく関係してくる。過



PPSh-41

弾倉を採用しているが、これはPPDサブマシンガン時代からの流れとも言える。事実、多弾数は戦果を上げることとなるが、実は思わぬデメリット、マイナス要因も発生している。PPSh-41は生産性の高さでも知られるが、そのため銃本体は完成しながらマガジン（ドラム型弾倉）の製造が追いつかず、出

荷できなかったというウソのような逸話がある。そのため1943年には、生産性の高いボックス型35連弾倉の製造が開始されている。ドラム型弾倉もボックス型弾倉も、初期のものは扱いによって変形が見られたため、素材の鋼板の厚みを0.5mmから1.0mmへと変更するという対策で解決している。

高い初速は使用弾薬から来ている。軍用ピストルのトカレフTT-33に使用されている7.62×25mmトカレフ弾は、初速が488m/秒に達し、貫通力と遠距離射撃において有利

型のMP40を参考に高性能化（高機能化）を進めることとなった。

たとえば、機関部はMP18と同様に上下2分割構造とし、メンテナンスを容易にすることを選び、銃身放熱カバーと上部機関部は一体構造とし同時にプレス加工での製造とされ、生産性を高めることに成功している。プレス加工によるコストダウンと生産性の向上は、当時のサブマシンガン開発における主流であり、軍用兵器においては射撃性能よりも優先される課題であった。

また、当時のサブマシンガンには低空を飛行する敵機への対空射撃能力も期待されていたため、ボルトの軽量化と後退ストロークを抑えることで発射速度を900～1,000発/分と桁違いに高めることに成功した。多くのサブマシンガンが600発/分前後であるのに対し、最大で1,000発/分の発射速度を実現するため、後退したボルトがレシーバーに激しく衝突するのを防ぐべくボルトバッファが設けられている。ただ、高い連射速度は優位性を生むものの、バッファを設けたとはいえレシーバーにトラブルを発生させる原因にもなっている……という課題を残している。

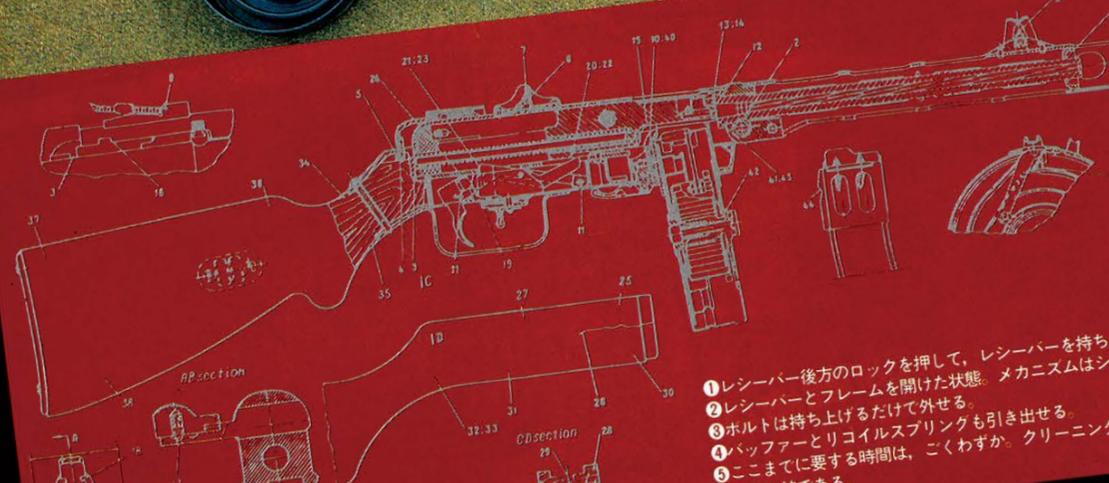
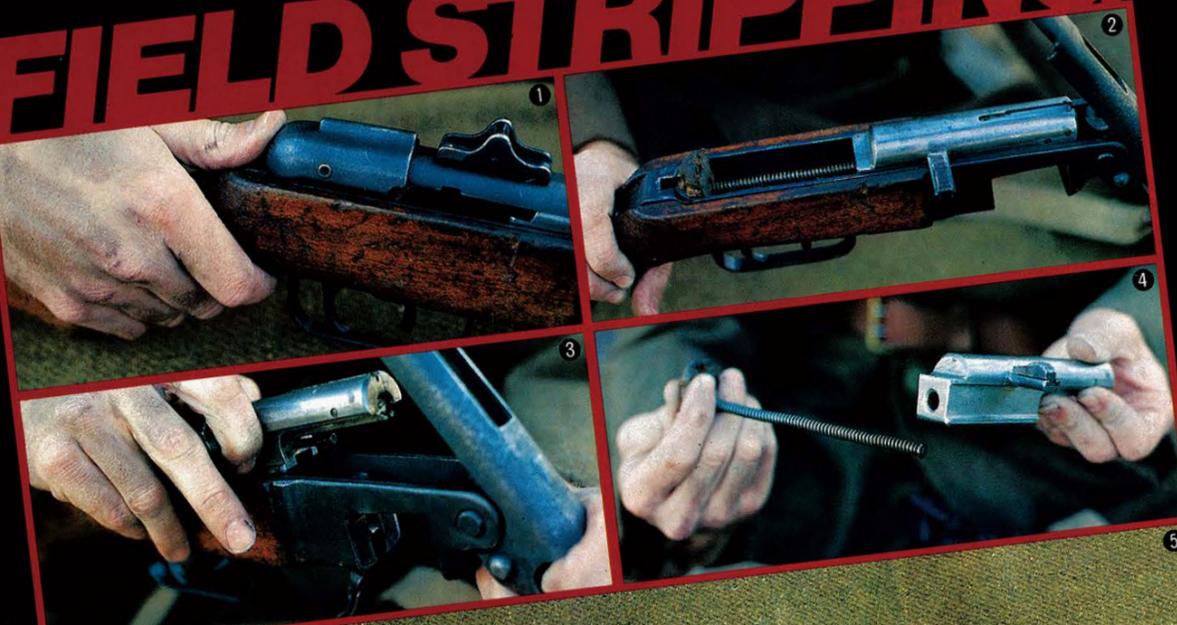
PPSh-41の特徴のひとつにもなっている銃身カバー先端の傾斜は、弾丸発射時に噴出するガスを上方へと逃がすことでマズルブレーキとして活用し効果を発揮しているが、同時に、ガスは左右方向へも放出するデザインでもあり、その結果、射撃時の爆音が射手に跳ね返るといったマイナスの効果も見られる。音は空気の流れによって伝わる性質上、方向性を持つため、射手から見て左右方向へのガス放出は想像以上に後方へも、つまりは射手自身にも跳ね返って伝わり、発射音を10倍から100倍（以上）に大きくすることがある。PPSh-41の射撃によって難聴になる兵士が続出したとされるが、あながち、大げさな話とは思えない。

さて、ソ連のPPSh-41は第二次世界大戦時の最高傑作との呼び声もあるが、その主な理由として下記の理由が挙げられる。

- 装弾数の多いドラム型弾倉
- 高い初速による高射程距離
- 高い発射速度による高攻撃力
- 安価かつ高生産性
- 安定した作動性能と堅牢性

フィンランドのスオミ KP/-31に酷く叩かれ、装弾数の多さはそのまま優位性に繋がると知ったソ連（シュバールギン）は、PPSh-41にもドラム型

FIELD STRIPPING



- レシーバー後方のロックを押して、レシーバーを持ち上げる。
- レシーバーとフレームを開けた状態。メカニズムはシンプル。
- ボルトは持ち上げるだけで外せる。
- バッファとリコイルスプリングも引き出せる。
- ここまで要する時間は、ごくわずか。クリーニングの非常に楽な銃である。

LOADING



- カートリッジの比較。左がヨーロッパ系の9mmパラベラム、中央が今回使用した7.62×25mmBall弾、右が7.62mmブランクカートリッジ。
- カートリッジを1個ずつ、70発をドラムマガジンに入れていく。
- カートリッジにテンションをかけるために、ロックするまでネジを巻く。
- その後、プレートが被せれば装弾は完了。
- フルロードの状態では2kg近くある重いマガジン。
- マガジンキャッチは折りたたみ式で、通常はこの状態である。
- マガジンを装弾するにはマガジンキャッチを起す2段階の操作が必要である。
- マガジンを装弾する。
- そしてマガジンを倒す。手間はかかるが、重いマガジンを確実にロックするためには必要な操作といえる。
- マガジン装弾完了。



LIFEが語る ベトナム戦争 20世紀アメリカ社会と兵士の顔

文／原克(早稲田大学教授) 構成／編集部

第3回 見えない敵 戦線のない戦争の悲劇



左端／表紙「ベトナムの危険な戦い」。(LIFE1963-1.25) 「メコン・デルタでベトナム軍部隊が共産主義者捕虜を本部に連行してゆく」。連行されたベトナム捕虜が小舟に乗せられる。「われわれはますますジャングル戦争の深みにはまってゆく」。ラリー・パロウス撮影。 中左／「ベトナムにおける戦争の率直な現実」。(LIFE1965-11.26) 「アメリカ海兵隊に捕えられ安全のため目と口をテープで塞がれたベトナム」。ハウル・シュツァー撮影。海兵隊第七連隊第三大隊上陸作戦部隊によるバタンガン岬上陸作戦随記。ベトナムが頑強に占拠している地帯だ。 中右／「戦線拡大する米軍の新しい戦場デルタ地帯 多雨な河川地帯がベトナムの心臓部だ」。航跡を残すPBR河川警備艇。(LIFE1967-1.13) 右端／「戦争は続く」。(LIFE1966-2.11) アンリ・フエ撮影。塹壕で手当てする衛生兵。「衛生兵——なだめて必死に手当する」。「自分も負傷しており、きつく包帯で締められているので、ほとんど片方の目の端からしか見えないにもかかわらず、第一騎兵師団の若き衛生兵トーマス・コルー等兵は、自分よりも重症の戦友たちを数時間休みなく看護しつづけた。とりわけひとりの兵士と、彼のことは決して忘れることはできないだろう。ハリソン・ベル二等軍曹が包帯で手当てしてもらった頭をコルー等兵の膝に載せC型缶詰野戦食を食べさせてもらい丁寧に顔を拭いてもらっている。

ポール・ウィリアム「戦争と映画」によれば、「戦争の歴史とは、まず何よりもその知覚の場の変貌の歴史にほかならない」。つまり戦争とは、「物質的勝利ではなく、知覚の場における「非物質性」を支配することを要とする。索敵し、捕捉して、殲滅する。だから空中写真、レーダー、暗視装置など、目的捕捉技術・探知技術が重要となる。敵の姿を捉える。光学的可視性を獲得する。これである。だがベトナム戦争は違った。敵の姿を捕捉することができないのだ。確かに姿は見えない。だが正体が見えない。光学的可視性が問題なのではない。存在論的不可視性が問題なのだ。だから、どこが戦場でどこが戦場でないか判然としない。戦線という概念が成立しないのだ。ウィリアムが言うように戦争が「知覚の兵站術」だとしたら、ベトナム戦争は、知覚の兵站術の破綻だったのではないか？

シルエットの敵

『ライフ』1963年1月25日号は、敵を探している。

「われわれはますますジャングル戦争の深みにはまっていった」⁽¹⁾。

この日、報道写真家ラリー・パロウスはメコン・デルタに入った。ベトナム掃討作戦にむかう南ベトナム陸軍部隊に随行したのだ。

「南ベトナムでの戦いに、刻々とアメリカは深く関わっていているが、沢山のものと戦わ

ねばならない。むせかえるような暑さの中で、ヘリコプターのブレードがうなりを上げて回転する。ウンザリさせられるジャングルの

泥土は悪臭をはなつ。蔓延する寄生虫に悩まされる。単調な害虫の羽音にうるさくつきま

とわれる」⁽¹⁾。そして何より、「姿の見えない敵がすぐ隣にいる。緑のジャングルに隠れてまちぶせし、突然、死の銃声を連射しながら、攻撃してくるのだ」⁽¹⁾。

視覚的に見えないだけではなく。問題はさらに深刻だった。

仮に姿を現したとしても、見分けがつかないのだ。ベトナム戦闘員なのか、あるいは、ただの民間人なのか。

黒衣 (black pajamas) にサンダル履

き。農民としてはごく普通の装束だ。いでたちや風貌からは判別できない。その意味で、ベトナムは「見えない敵」なのだ。

記事も嘆息している。「夜襲を掛けたゲリラも、昼日中だと、どこにでもいる更紗を着た農夫・小作人にしか見えないのである」⁽¹⁾。

敵の判別に苦勞しているのは報道カメラマンばかりではない。行方不明になった兄を探しにアメリカからやってきた弟ドナルド・ドーンも同断だ。

『ライフ』1965年3月12日号が伝えている。「頑固なアメリカ人のベトナム冒険物語 行方不明の兄を必死に捜し続ける」⁽²⁾と題された記事だ。

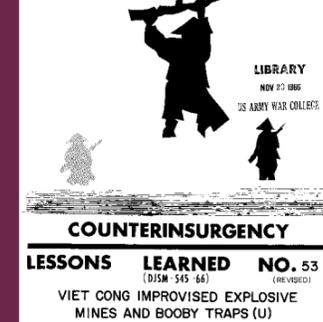
数ヶ月前、作戦中に墜落して行方不明になった偵察機パイロットの兄を、必死に捜し回る。毎日、ベトナム支配地域まで足を運び、情報を得ようと、村人たちに訊ねまわる。

ドナルドはつねに背後に気配を感じる。監視されているに違いない。だから注意深く目を配る。

しかし、「見えたのは一瞬だった。全身黒づくめの影が、木々の間にすばしこく走りこむ。彼には正体が分かっている。なぜなら、ジャングルは奴らで一杯だからだ——ベトナムで」⁽²⁾。

シルエットでしかない敵。敵の影。影としての敵。

物理的に影としか知覚できなかったアメリカ軍発行のベトナム戦争レポートに描かれた、笠と野良着姿のベトナム。



最上段／「ジャングルへの空輸。米陸軍H-21ヘリコプターが戦場地点に到着しベトナム軍パトロール隊に物資を搬送する。負傷した兵士を連れ戻った」。(LIFE1963-1.25) 第二段／「戦場 (死の原野)」。『震に掛かり、デルタ地帯で斃れたベトナム兵士たち。岸辺にはベトナムの旗が立っている。捕虜になった兵士たちはうずくまって固まっている。アメリカ人軍事顧問がいる」。(LIFE1963-1.25) 第三段／「恐怖に怯える捕虜」。「ベトナム軍の護衛が銃剣で威嚇すると捕虜になったベトナム兵は恐怖のあまり跳いだ。護衛は武器の隠し場所を聞き出そうとする」。(LIFE1963-1.25) 最下段／「頑固なアメリカ人のベトナム冒険物語 行方不明の兄を必死に捜し続ける」。作戦中行方不明になった偵察機パイロットの兄ドナルド・ドーンを捜し回る弟ドナルド。(LIFE1965-3.12)

¹ "We Wade Deeper Into Jungle War" "Stark color of the vicious struggle in Vietnam" in: LIFE, 1963, January 25, p.22
² "Saga of a stubborn American in Vietnam. Perilous search for a lost brother" "A haunted man's perilous search" in: LIFE, 1965, March 12, p.26

プロジェクトデルタ 偵察マニュアル

Part 10 最終回

潜入と脱出に関する諸注意

文/鈴木健太郎
写真/U.S. ARMY, U.S. NAVY, USAF, USMC,
AUSTRALIAN WAR MEMORIAL, WPPアーカイブ



縄ばしごを使った昇降訓練を行なうMACV-SOGの隊員。ベトナムではハンソンリグ、マクガイアリグ、スターボリグといった新しい空中抽出器具が登場したのだが縄ばしごの存在意義が失われることはなかった。右の隊員がリュックサックに括り付けているのは偵察隊員の必需品であるラベリングロープで、航空機からの降下や崖の昇降、そして渡河の際にも役に立った。



出撃準備を整える空軍第20特殊作戦飛行隊「グリーンホーネッツ」のヘリクルー。UH-1の側面には折りたたまれた縄ばしごの姿がある。



UH-1に乗って敵地に向かう第173空挺旅団のLRRP。このヘリでは膝から先を機体の外に出して座る兵士が多いが、写真では脚が痺れたり敵の攻撃を受けた際に被弾するリスクを避けるために胡座をかいている。



敵地に舞い降りた偵察チーム。航空機の離発着時は敵にとって攻撃を仕掛ける絶好の機会となるので、LZでは細心の注意を払いつつビーディーに行動しなければならない。



カーゴランプから下の様子を窺うCH-47のクルー。地表にある無数の白い点は砲撃によってできたクレーターである。



南ベトナム軍の偵察部隊を乗せて飛び立つUH-1。ベトナムではUH-1のほかCH-34やCH-46などの機種も用いられていた。

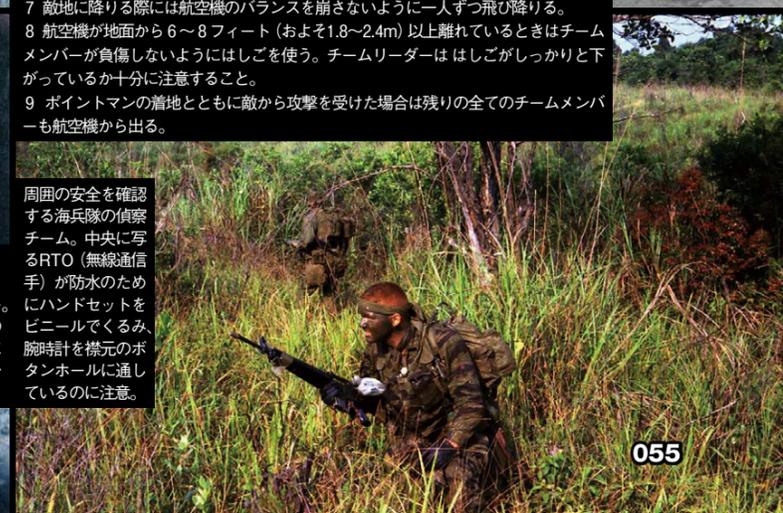


ロープを使って敵地に降下するSEAL隊員。ロープはヘリのバランスを崩さないように両側から下げられている。



- 1 航空機の中ではチーム全員が座席に座ることで適切なドアから出られるようになる。
- 2 着陸時にチームが正しい向きに進めるように航空機にはテイルガナー（チームの最後尾を進む者）を先頭にして乗り込むこと。
- 3 航空機内ではチームリーダーがパイロットとコパイロット（副操縦士）の間に座り、残りのメンバーは航空機に備えられた防火壁を背にして座る。
- 4 急激な重心の移動は航空機のコントロールを失う危険があることを頭に入れておく。
- 5 航空機がどの方向からLZ（着陸地点）に侵入するかはチームリーダーとパイロットが決める。チームが敵地に降りる際はチームリーダーとパイロットがどの方向からLZ（着陸地点）に侵入するかを決める。
- 6 FOB（Forward Oporation Base＝前方作戦基地）からLZまでの航路はチームリーダーが持つ地図にしたがう。
- 7 敵地に降りる際には航空機のバランスを崩さないように一人ずつ飛び降りる。
- 8 航空機が地面から6～8フィート（およそ1.8～2.4m）以上離れているときはチームメンバーが負傷しないようにはしごを使う。チームリーダーははしごがしっかりと下がっているか十分に注意すること。
- 9 ポイントマンの着地とともに敵から攻撃を受けた場合は残りの全てのチームメンバーも航空機から出る。

周囲の安全を確認する海兵隊の偵察チーム。中央に写るRTO（無線通信手）が防水のためにハンドセットをビニールでくるみ、脚時計を襟元のボタンホールに通しているのに注意。



THE EQUIPMENTS OF THE U.S. FORCE

第198回 [現用米軍装備カタログ]

「海」装備特集

part 13

1990年代後半～2000年代の強襲上陸装備 CQB&VBSS編

●解説/松原 隆 ●撮影/山崎 学 ●協力ショップ/LAZY CAT、トイソルジャー、TRI'S(旧特小工房) ●協力/木島秀邦



米海軍のVBSSチームは通常、M4カービン銃、モスバーグ500ショットガン、軍用拳銃で武装している。ボディ・アーマーは通常ケブラー素材&セラミック・プレートがインサートされたベスト、ライフ・プリザーバー救命具を装備する。

海上船舶臨検作業VBSS (Visit Board Search and Seizure) とは——?

海上船舶搭乗行動および戦術のために、米国の軍隊や法執行機関によって使用される用語。VBSSチームは、敵船を捕獲し、テロ、海賊行為、麻薬武器密輸グループと戦い、税関、安全、その他の検査を行なう。VBSSトレーニングで学ぶスキルは、近接戦闘(CQB)を中心に、白兵戦、捜索手順、チーム隊員への指示、射撃、懸垂下降、捜索、そして逮捕手順の熟練度を上げていく。これにヘリコプターを追加した訓練(HVBSS)では、緊急接近、搭乗、捜索、押収、船舶上空でヘリコプターが浮上した状態で手袋だけで降下するファスト・ロープ訓練が行なわれる。

なお、海軍におけるVBSS隊員へのスラングは「ギャング」(＝他人の船に土足で乗り込む無頼者)と言われている。

こちらのVBSS写真ではSPIEハーネス・アッセンブリーは使用していないのでファスト・ロープで乗船した事が分かる。ゴーグルはスコット社製。



LIGHTNING CUSTOM BLACK Ver.



コンパクトなボディに高い機能を凝縮したM4013 TSWライトニング・カスタム。ハイセンスなデザインを得意とするS&Wパフォーマンス・センターが手掛けたカスタム・オートを再現している。



フレームの右側にはS&Wの通常モデルを魅力的なカスタムガンに変身させるパフォーマンス・センターのトレードマークが刻まれている。

ノンリキッド・システムを内蔵したRタイプ・マガジンとアイデアを駆使したリコイル・システムが、ハイスピード・アクションと強いキックを生み出すM4013TSW。



フロント・ストラップに刻まれた深いチェッカーが、抜群のノン・スリップ効果を発揮する。

ダスト・カバーに汎用性の高い20mmサイズのショート・レールを装備。トリガーガードとフロント・ストラップの境界に深いハイ・グリップ加工が施されている。

ストレート・バックの握りやすいワンピース・タイプ・グリップ。コンパクトなグリップ・サイズを、フィンガー・レストがカバーしてくれる。



M4013TSWはM39を原点として第2、第3世代と引き継がれてきたS&Wダブルアクション・セミオートのもの、最終段階にあたる第3世代のコンパクト・オート。ダスト・カバーにアクセサリ・レールを装備するTSW (タクティカルSW) シリーズは、CHP (カリフォルニア・ハイウェイ・パトロール) からの要請で製作され、制式採用された「M4006」の特徴を、レディ・スミス、ショーティ・フォーティと発展してきたコンパクト・モデルに融合した最終形態だ。9mm×19と.45の中間に位置する10mm、.40SWカートリッジ用のモデルも、第3世代で採用されたバリエーション。M4013は.40SWを使用するコンパクト・オートだ。

固定スライド・ガスガンの時代にSWコンパクト・オート「S&W M6906ショーティ・フォーティ」をモデルアップして、M59の人気を引き継いだウエスタンアームズ(以下、WA)では、マグナ

メカを搭載したブローバック・モデルのショーティ・フォーティを復活してS&Wコンパクト・モデル・ファンを狂喜させた。その後、高度な機械加工を駆使したいくつかのカスタム・モデル、タクティカル系カスタムのTSWへと発展。今回は、S&Wパフォーマンス・センターがカスタム・アップした「M4013TSWライトニング・カスタム/ブラックVer.」が新登場する。2023年の春に登場したシルバー・モデルを、焼き付け塗装でマット・ブラックにフィニッシュした精悍な外観のカスタム・モデルだ。

CBHW製のスライド上面2ヵ所に、精度の高い機械加工で追加されたライトニング・カットは、本来スライド重量を軽減することで、素早い連射とスライド内部の冷却効果を実現するためのカスタム・アップだが、マグナ・モデルの場合は、実際の機能よりも視覚効果に果たすメリットが大きい。

近代型タクティカル・オートTSWを、さらにアグレッシブなイメージで包み込んだ「M4013 TSWライトニング・カスタム/ブラックVer.」。熟成されたマグナメカが、ハイスピード・アクションと強いキックを手伝うこの1挺を、ダブルアクション・オート・ファンは何を置いても手に入れよう。

ハンマーはダブルアクション優先のデホーンドタイプ。リア・サイトはロー・ポジションのバック・タイプだ。



WESTERN ARMS

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY
 西ウエスタンアームズ ☎03-3407-5922
<http://www.wa-gunnet.co.jp>

COLT M1911 BLACK ARMY WOODGRIP Ver.



良く似合う。コピー・ベースは、軍の要請を受けたコルトが、第一次大戦末期の1918年に増産した最終生産ラインのM1911。フラット・サイドに粗いヘアラインを残した黒く輝く外観が、軍用モデルらしい強かなムードを醸し出す。

は得られなかった。コルトは「よりパワフルなカートリッジを使用するセミオート」という米軍の要請を受けて、M1903をベースにした.45口径のセミオート「M1905」を製作。1906年から、サベージM1906、ルガーM1906(.45口径のアメリカ向けバリエーション)、そしてS&W、コルトのダブルアクション・リボルバーなどが参加する本格的なトライアルが始まった。テストは1911年まで続き、この間コルトは、M1907、M1909、M1910と改良モデルを製作。それらの最終改良モデルが、M1911の正式名称で米陸軍制式採用拳銃に採用された。

近代モデルが活躍し、M1911の新たな伝説を生み続けている。1800年代の末、ヨーロッパでは多くのセミオートが開発され、各国がそれらを軍用として採用していた。一貫してリボルバーを軍用制式としてきた米軍

M1911は採用当時、ポリッシュと加熱処理によるヒート・ブルー(コルト・ロイヤル・ブルー)でフィニッシュされていたが、生産性とコスト、そして軍用としては反射が強すぎるという理由から、2万4,001挺目以降14万丁まで、ヘアラインを入れたファイン・フィニッシュに変更された。14万1挺目からの40万挺

ノスタルジックなダブル・ダイヤモンド・チェッカー・グリップを標準装備したM1911プレミアム・モデル

アメリカ合衆国を象徴するパワフルなイメージのセミオート、M1911(M1911A1)は、1911年に米陸軍制式採用拳銃に制定され、74年間にわたって制式拳銃の座を守り続けた。米軍の制式を降りた後も、機能性とパワーに対する信頼性は、スペシャル・フォース、政府・警察関係、そして商業市場などで人気を保ち続け、誕生から1世紀以上が過ぎた現在でも、アップデートされた

もセミオートのテストをスタート。パーカッション・リボルバーの時代から、多くの米軍制式採用拳銃を生産してきたコルトは、このテストにジョン・M・ブローニングの設計をベースに開発したM1900を提出していた。テストの結果を反映した改良型のM1902、M1903などを継続して軍に提出したものの、どのモデルも.38口径であったことから、軍用としての威力不足を否定できず高い評価

今月、WAが発売するのは、軍用モデルの荒々しさと、オールスチール・モデルの重厚さを湛えたM1911ブラックアーミーに、ローズ・ウッドのグリップを標準装備した「コルトM1911ブラックアーミー/ウッドグリップVer.」。グリップ・スクリュウ部分2ヵ所を菱形に残し、フル・チェッカーを刻んだノスタルジックなデザインが、オールド・タイプの軍用M1911に

新たに採用されたローズ・ウッド製のダブル・ダイヤモンド・チェッカーグリップ。高級天然素材を使用したノスタルジックなデザインが、M1911に良く似合う。



Militaria Roundup!

U.S. NAVY ユニフォーム Part 1

空母をはじめとする各種艦船、そして航空機とミリタリーの世界で人気の高いアメリカ海軍だが、意外にもユニフォームが紹介されることは少ない。そこで今回は現在入手可能なアイテムでアメリカ海軍のユニフォームの一端を紹介していこう。

解説/菊月俊之 写真/青木健格 撮影協力/サムズミリタリ屋 <https://www.sams-militariya.com>
MASH ☎06-6567-3312 <http://www.mash-japan.co.jp>

アメリカ海軍ユニフォームの概略

現行のアメリカ海軍服装規定ではユニフォームを①ディナー・ドレス、②セレモニアル、③サービス、④サービス・ドレス、⑤ワーキング、⑥フィジカル・トレーニングの6種類(別表参照)に分類しており、階級によってさらに①将校、②先任兵曹、③下士官兵(Enlisted)に分類される。そして各ユニフォームごとに着用するアイテムが定められているが、⑤のワーキング・ユニフォームと⑥のフィジカル・トレーニングは・ユニフォーム全階級で共通だ。

階級は①将校(Officer)が少尉から大将。そして准尉(Warrant Officer)が准尉1から先任准尉5(W-5)まで。②先任兵曹(CPO/Chief Petty Officer)が先任兵曹から海軍最先任兵曹まで。③下士官兵が2等水兵から1等兵曹と区分されている(別表参照)。今回紹介する水兵服とダンガリーズは③の下士官兵用のユニフォームだが、後者の作業服は現在では廃止されており、現在はNWU(Navy Work Uniform)と交代している。なお今回はスペースの関係で省略したが、各ユニフォームと階級章に関しては回を改めて紹介したい。



ブルー・サービス・ドレス(水兵服)
ブルーのサービス・ドレス・ユニフォームを着用した下士官。いわゆる水兵服(セーラー服)は2等水兵から1等兵曹が着用するユニフォームで、ディナー・ドレス、セレモニアル、サービス・ドレス・ユニフォームにおいて着用される。
(Photo : U.S. Navy)

アメリカ海軍ユニフォーム区分

①ディナー・ドレス・ユニフォーム (Dinner Dress Uniform) フォーマル ディナー・ジャケット(ブルー&ホワイト) ディナー・ドレス(ブルー&ホワイト)
②セレモニアル・ユニフォーム (Ceremonial Uniform) フル・ドレス(ブルー&ホワイト)
③サービス・ドレス・ユニフォーム (Service Dress Uniform) ブルー&ホワイト・ユニフォーム
④サービス・ユニフォーム (Service Uniform) サービス・カーキ サマー・ホワイト
⑤ワーキング・ユニフォーム (Working Uniform) カパーオール NWU
⑥フィジカル・トレーニング・ユニフォーム (Physical Training)

①のドレス・ユニフォームは将校と先任兵曹がジャケットまたはコートを着用し、下士官兵はジャケットまたは水兵服を着用。フォーマルは将校のみが着用する。②および③は将校と先任兵曹がコート、下士官兵が水兵服を着用。色はブルーと白の2種類に分かれる。④のサービス・ユニフォームは半袖シャツとトラウザーズから構成され、将校と先任兵曹はカーキとサマー・ホワイトの2種類だが、下士官兵はカーキの半袖シャツと黒のトラウザーズを着用。そして⑥のフィジカル・ユニフォームはゴールド(黄色)のシャツとブルーのショーツで構成。なお各ユニフォームにはオプションとして状況に応じて着用するアイテムが定められている。

アメリカ海軍 階級内訳

下士官兵 (ENLISTED)	
E-1	2等水兵 (Seaman Recruit)
E-2	1等水兵 (Seaman Apprentice)
E-3	上等水兵 (Seaman)
E-4	3等兵曹 (Petty Officer 3rd Class)
E-5	2等兵曹 (Petty Officer 2nd Class)
E-6	1等兵曹 (Petty Officer 1st Class)
先任兵曹 (CHIEF PETTY OFFICER)	
E-7	先任兵曹 (Chief Petty Officer)
E-8	上等先任兵曹 (Senior Chief Petty Officer)
E-9	最先任兵曹 (Master Chief Petty Officer)
E-9	海軍最先任兵曹 (Master Chief Petty Officer of the Navy)

E-1	E-2	E-3	E-4	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	*
SEAMAN RECRUIT	SEAMAN APPRENTICE	SEAMAN	PETTY OFFICER THIRD CLASS	PETTY OFFICER SECOND CLASS	PETTY OFFICER FIRST CLASS	CHIEF PETTY OFFICER	SENIOR CHIEF PETTY OFFICER	MASTER CHIEF PETTY OFFICER	MASTER CHIEF PETTY OFFICER OF THE NAVY
SENIOR PETTY OFFICERS COLLAR DEVICES									
(Collar devices are represented by icons of the rank insignia)									



保有艦艇数では中国に抜かれたが、世界最大規模を誇るアメリカ海軍は独立戦争中の1775年に創設された「大陸海軍」を起源とし、220年以上の歴史を誇る。写真は戦艦ウイスコンシン (BB-64) で2006年に除籍となり、現在はバージニア州ノーフォークで記念艦として保存されている。(Photo : U.S. Navy)

将校 (OFFICER) 准尉 (WARRANT)*	
W-1	准尉1 (Warrant Officer 1)
W-2	先任准尉2 (Chief Warrant Officer 2)
W-3	先任准尉3 (Warrant Officer 3)
W-4	先任准尉4 (Chief Warrant Officer 4)
W-5	先任准尉5 (Chief Warrant Officer 5)
将校 (COMMISSIONED)	
O-1	少尉 (Ensign)
O-2	中尉 (Lieutenant Junior Grade)
O-3	大尉 (Lieutenant)
O-4	少佐 (Lieutenant Commander)
O-5	中佐 (Commander)
O-6	大佐 (Captain)
O-7	下級少将 (Rear Admiral Lower Half)
O-8	少将 (Rear Admiral Upper Half)
O-9	中将 (Vice Admiral)
O-10	大将 (Admiral)

*准尉は旧日本海軍にならって上級兵曹長と訳される場合もある。

下士官兵階級区分

海軍マニュアル“Basic Military Requirement”に掲載された下士官兵の階級区分。一番上の“E”と数字が給与等級(Pay Grade)を表す。図は2等水兵(E-1)の階級章は斜め線1本だったが、1996年に廃止されている。

ホワイト・ジャンパー(セーラー服)

JUMPER, MAN'S WHITE

各国海軍で着用される水兵服は帆船時代の船乗り(セーラー)が着ていた甲板衣がルーツで、現在の様なスタイルとなったのは19世紀とされる。これを水兵服として採用したのはイギリス海軍が最初で、アメリカ海軍が採用するのは南北戦争後の1866年となった。アメリカ海軍の水兵服は“ジャンパー”と呼ばれるが、ジャンパーとは本来は水夫や漁師が着る上着の意味だ。

アメリカ海軍の水兵服は2等水兵(E-1)から1等兵曹(E-6)が着用するユニフォームで、色は冬期用ブルーと夏期用ホワイトの2種類。それぞれ①ドレス(Dress)と②サービス・ドレス(Service Dress)の別が存在する。①のドレスには襟と袖に3本のラインが入り、後ろ襟には左右に星が入るが、②のサービス・ドレスには入らない。また夏期用のホワイトでは1940年に廃止されたが(戦争による染料不足が理由)、2010年代頃に①②ともにラインと星が入るようになった。またホワイト・ジャンパーとトラウザーズの素材はコットンだが、1980年代にはポリエステル100%に変更されている。

アメリカ海軍のジャンパー(セーラー服)は頭から被るプルオーバー式で、色はブルーとホワイトの2種類。さらにドレスとサービス・ドレス(アンドレス)に区分される。ドレスには襟と袖に3本のライン、後ろ襟に2個の星が入るが、サービス・ドレスには入らない。ただしホワイト・ジャンパーの場合はドレス、サービス・ドレスともにラインと星は入らない。ちなみに現行のブルーおよびホワイト・ジャンパーはドレスとサービス・ドレスの区別なくラインと星が入っている。写真のホワイト・ジャンパーはベトナム戦争中の1972年発注の未使用品。(撮影協力: MASH/00-11-0010 US NAVY コットン・ホワイトセーラー・トップ/価格\$5280円)



白のセーラー服を着用した1等水兵。ユニフォーム区分はホワイト・サービス・ドレスで、夏期およびディナー・ドレスとフルドレス・ユニフォームの着用が認められていない場合に着用するものと規定されている。(Photo : Department of Defense)

サービス・ホワイト構成アイテム

- ①ホワイト・ジャンパー
- ②ホワイト・トラウザーズ
- ③ホワイト・ハット
- ④ブラック・ドレス・シューズ
- ⑤ブラック・ソックス
- ⑥ホワイト・クルーネック・アンダーシャツ
- ⑦ホワイト・アンダーショーツ
- ⑧ホワイト・ベルト
- ⑨シルバー・バックル
- ⑩ネッカチーフ
- ⑪階級章・特技章
- ⑫勲章略綬(リボソ)

マーキング

裾の縁(ヘム)裏側にスタンプされたマーキング。名称の最後に付く“アンドレス”は「平服」の意味で、ユニフォーム区分のサービス・ドレスで着用する。3行目の契約番号からジャンパーが1972年製のものが判る。



オーナーシップ・マーキング

ジャンパー裾の縁に記入された所有者名と認識番号(オーナーシップ・マーキング)。アメリカ海軍では、ステンシルまたはスタンプで名前と認識番号を背中の中心線に合わせて入れるものと規定された。ただし現在は、ラベルに所有者名と認識番号の記入欄が設けられている。



ホワイト・ドレス

司令官交代式における儀仗兵。着用しているのはホワイト・ドレス(正装)で①司令官交代式、②海軍規定で認められた式典への公式訪問、③外国軍人および外国高官のための式典への訪問、④州の行事、儀式、典礼の際に着用するものとされている。写真は2009年の撮影。(Photo : U.S. Navy)



DJちゅうの **第3回 #MilsimFarEast #MFE03**
GEARHEADS ミルシム
JUNCTION ファーイースト

GEARHEADS :[ギアヘッズ]
 熱狂的な装備フリーク—
JUNCTION :[ジャンクション]
 接合、連接、交差点または分岐点—

Japan Milsim Event
2023.10.8-9
MilsimFarEast 03

ミリタリーシミュレーションを略して呼称される”ミルシム”。今回で第3回目となる国内最大級の現用ミルシムイベント MilsimFarEast/ミルシムファーイースト(以下、MFE)が静岡県伊豆市にある「修善寺 虹の郷」にて開催された。MFEでは赤外線光線ユニットB2iを導入しているため(※BB弾を使用しない)、市街地のような広い施設を有するテーマパークでの開催が実現した。今回はその様子とMFEに必要な装備をご紹介します。

文/DJちゅう
 写真/gearbles (@gearbles)、いな (@ina_r1z)、シオン (@erudishion)、あかみそP (@acamisoP_3DTech) 統裁補助協力/緑之会 フライトシミュレーター (Falcon BMS) 協力/309th VFS





FESTIVAL 2023 in ベルサール秋葉原

4年ぶりの開催!
見て、触って、撃って楽しむ、
東京マルイのエアソフトガン祭り2days!!

「COOLジャパンを全世界に発信する街」としてその名を轟かせるオタクの聖地=秋葉原。そのまさに中心ともいえる多目的展示会場「ベルサール秋葉原」にて、2023年11月11日~12日の2日間にわたり「東京マルイ・フェスティバル2023」が開催された。マルイ単独開催のイベントとしては最大規模で、過去にも業界を揺るがす大型新製品の数々が発表されて来た大注目の催事だが、コロナ禍もあってここ数年は「マルフェス・オンライン」が繰り返されていた。それが遂に4年振りのリアル・イベントとして帰還! ちょうど秋から冬に季節が移り変わる時期、雨風がやや肌寒い天候ではあったものの、この日を待ち望んだ熱心なファン、業界関係者、そしてカルチャーに敏感な人々や、カップルに親子連れ……と、アキバ特有のさまざまな来場者の熱気に、会場の空気はずっとHOT! だった。

Photo & Text by Takeo Ishii



「リコリス・リコイル」公式コロナモデル「千束の銃」試作モデル初展示!

デトニクス.45ベースでフィット感の良さそうなウッド調グリップとフィンガーレスト付きマガジン装備。ストライク・フェイス付きのコンベンセーター兼用スタビライザーが目玉。ミディアム・ハイタイプの前夜サイトも新規制作パーツか?

大ヒット・オリジナルTVアニメ「リコリス・リコイル」との公式コロナモデル「千束(ちさと)の銃」。今回は従来のバネ刀に加え、発売される製品に近い状態まで仕上げられた試作品の展示が行なわれた。



「リコリス・リコイル」公式コロナモデル「千束の銃」製品化決定! <近日新発売>

ガスブローバックハンドガン グロックG17 Gen5 MOS

「第61回 全日本模型ホビーショー」にて衝撃デビューを果たし注目を集める「グロックG17 Gen5 MOS」のブースは終日人だかりだった。開発担当者ご本人から色々な説明が聞けるのもリアル・マルフェスの醍醐味!



マイクロプロサイトにも待望の新品、ホワイトが加わる予定!



複雑なカラーリングにはさまざまな焼付塗装技術が駆使される。アクセントのメタリック・レッド・トリガーが素晴らしい目を惹き、じつにカッコいい!

ガスブローバック・ハンドガン White D.O.R

マイクロプロサイトをスライドにダイレクト・マウントできる新世代型のハイキャバD.O.R.に特殊カラーリングモデル「White D.O.R」が加わる。2024年発売予定。



NEW ハイキャバD.O.R.に、特殊なカラーリングモデルが登場!



7.5インチ・ショートバレルの先端には迫力のハイダー。どちらもアルミ切削パーツ。ハンドガードはレールを外したシンプル・スタイルでの運用も可能。



SAIGA-12KはセミオートのみだったがSBSはフル&セミ切り替え式に! セレクターにもフルオートを意味する「A」ポジションが追加される。



サイドスイング式のエンハンスド・ストックはM4系と同規格十肉抜きによる軽量化が施されたストックパイプ仕様で、6段階の長さ調整が可能。



メイン会場は「18歳以上限定」とされ、入場時には年齢確認や金属探知機を使用した手荷物検査等も実施された。



18歳以上用シューティングレンジの最大射距離は14m。電動ガンPLUS [P-90+]、次世代電動ガン [MP5A4]、ガスブローバック「グロックG17 Gen5 MOS」で順繰りに、金属ターゲットを撃つ事が出来た。

シューティングレンジにも終日長蛇の列!



ガスブローバック・ショットガン SAIGA-12 SBS

大好評発売中の3発同時発射ガスブローバック・ショットガンSAIGA-12Kのオリジナル・カスタムとして「SBS (=ショート・バレル・ショットガン)」が発表された。レール付きハンドガード、従来より装弾数が倍の90発(3発×30ショット!)となったロングマガジンが標準装備となる。2024年春頃の発売予定。

NEW サイガ-12Kのオリジナルカスタムモデル登場!
対象年齢18歳以上 **ガスブローバック ショットガン**
サイガ12シリーズ用 **ロングマガジン**
総弾数90発=30ショット
同時発売予定 / 価格未定

7.5インチ ショートアウターバレルはアルミ製 (ハイダー込みで70インチ)

迫力ある、SBS 新型ハイダーもアルミ切削製

アンダーレール付属

マガジンケース

ガスタンクと給弾スペースが分割式 ガスタンクには温度シールが貼付

24年春頃 発売予定 / 価格未定

NEW GAS BLOW BACK SHOT GUN

エンハンスドストック標準装備 (6発ショット)とフォールディング可能

A2クリップ標準装備

3発同時発射のカスタムガスブローバックショットガンに「フルオート機能」が追加!!

The Gun Maker Carrying Out Extreme Sensitivity. Hi-Quality for the Customers

日本製 MADE IN JAPAN

GUN POWER 専用ガス 別売

HOP UP SYSTEM X3

新型ロングマガジン標準装備 総弾数90発=30ショット